

# 令和7年度イカナゴ親魚調査結果概要

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所

令和7年12月3～7日（冬季1回目）、および12月18～22日（冬季2回目）に、備讃瀬戸（坂出、高松、庵治地先）においてイカナゴ親魚調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。本調査は備讃瀬戸におけるイカナゴ親魚の分布密度と体サイズ・年齢組成、生殖腺熟度を明らかにし、瀬戸内海東部海域における資源管理のためのデータ取得と情報提供を目的としています。

## 調査方法

調査船こたか丸により、空釣りこぎ漁具（図1）の曳航を速力約3ノットで5分間、1調査点につき原則3回ずつ、計12調査点（図2）にて実施した。

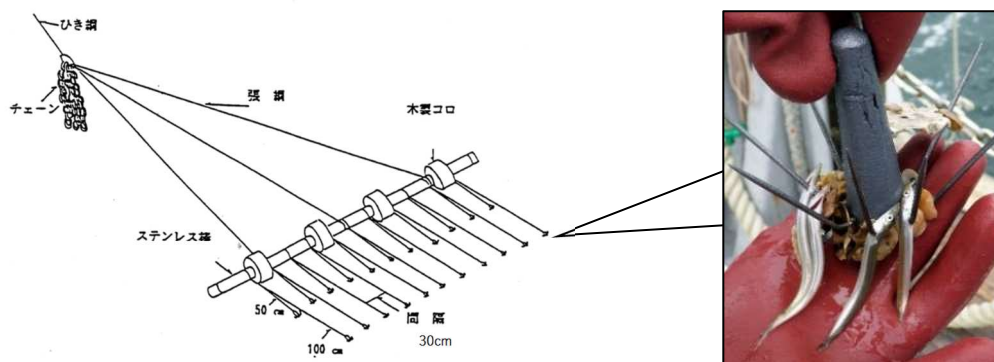


図1 空釣りこぎ漁具（反田（1998）を改変）：先端にスマルと呼ばれる針付き錘を装着

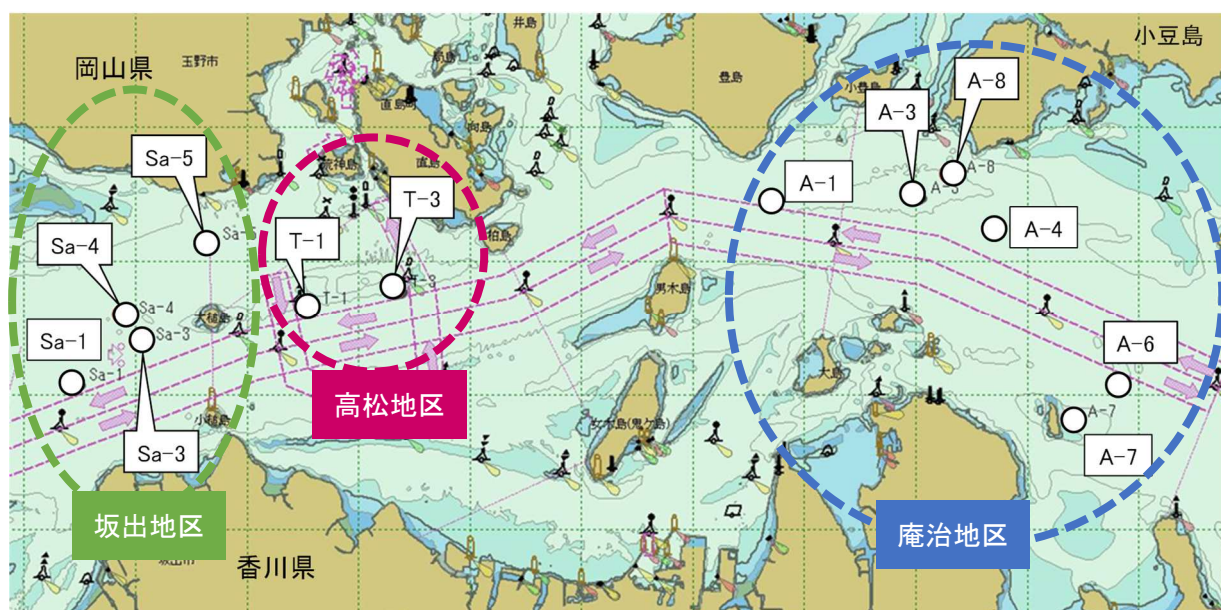


図2 調査点配置（○で示す）、海図は（一財）日本水路協会発行 new pec より引用

## 1. イカナゴ親魚密度（表 1、2）

- ・両調査を通じた平均親魚密度（空釣りこぎ1回当たりの採集尾数）は0.01尾で、過去最低を更新した昨年度調査の0.1尾をさらに下回り、**0歳魚、1歳魚ともに過去最低の密度を更新した。**
  - ・冬季調査における年齢組成は0歳魚が100%で、1歳魚以上は採集されなかった。
  - ・今年度を実施した調査では、7月夏季調査以外は過去最低の密度を更新した。
- ※年齢の起算日は1月1日とする（0歳魚：令和7年1月1日生まれ）。

表1 調査点ごとの親魚密度（空釣りこぎ1回当たりの採集尾数）

調査地点	1回目		2回目		1回目+2回目		合計
	0歳魚	1歳魚以上	0歳魚	1歳魚以上	0歳魚	1歳魚以上	
Sa-1 (C1ブイ北東)	荒天により欠測		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
坂出	荒天により欠測		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地区	荒天により欠測		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
Sa-5 (日比海域)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高松	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地区	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
T-3 (オーソの瀬東)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A-1 (豊島南)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A-3 (平瀬)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
庵治	荒天により欠測		荒天により欠測		—	—	—
地区	0.0	0.0	0.3	0.0	0.2	0.0	0.2
A-6 (高瀬)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A-7 (ジノ瀬)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A-8 (平瀬東)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均	0.0	0.0	0.03	0.0	0.01	0.0	0.01

表2 親魚密度・年齢組成・平均全長（過去の調査との比較） ※夏季調査は7月に実施

		0歳魚			1歳魚以上			全体
		親魚密度 (尾/回)	割合 (%)	全長 (mm)	親魚密度 (尾/回)	割合 (%)	全長 (mm)	親魚密度 (尾/回)
R2	夏季	6.6	97.2	91.7	0.2	2.8	130.8	6.8
	冬季	8.6	94.1	93.8	0.4	5.9	129.6	9.0
R3	夏季	7.6	94.6	81.5	0.4	5.4	122.5	8.0
	冬季	8.0	78.3	83.8	2.2	21.7	126.0	10.2
R4	夏季	18.6	98.5	82.7	0.3	1.5	119.9	18.9
	冬季	2.6	77.9	86.3	0.8	22.1	121.9	3.4
R5	夏季	4.0	97.7	84.6	0.1	2.3	132.7	4.1
	冬季	0.4	88.9	87.5	0.1	11.1	138.0	0.5
R6	夏季	0.7	93.3	93.0	0.05	6.7	119.8	0.7
	冬季	0.1	88.9	100.5	0.01	11.1	120.3	0.1
R7	夏季	1.4	100.0	99.9	0.0	0.0	—	1.4
	冬季	0.01	100.0	100.0	0.0	0.0	—	0.01
R2-R6	夏季	7.5	96.3	86.7	0.2	3.7	125.1	7.7
平均	冬季	3.9	85.6	90.4	0.7	14.4	127.2	4.6

## 2. イカナゴ親魚の全長組成 (図3)

- ・平均全長は0歳魚が1回目採集なし、2回目100.0mm (n=1) であり、昨年度調査(1回目:103.2mm (n=1)、2回目:97.7mm (n=7))と同様であった。ただし、採集数が1個体のみと、昨年度調査よりもさらに減少している点には留意する必要がある。
- ・1歳魚以上は採集されなかった。なお、今年度は調査全体を通じて初めて1歳魚以上が採集されなかった。

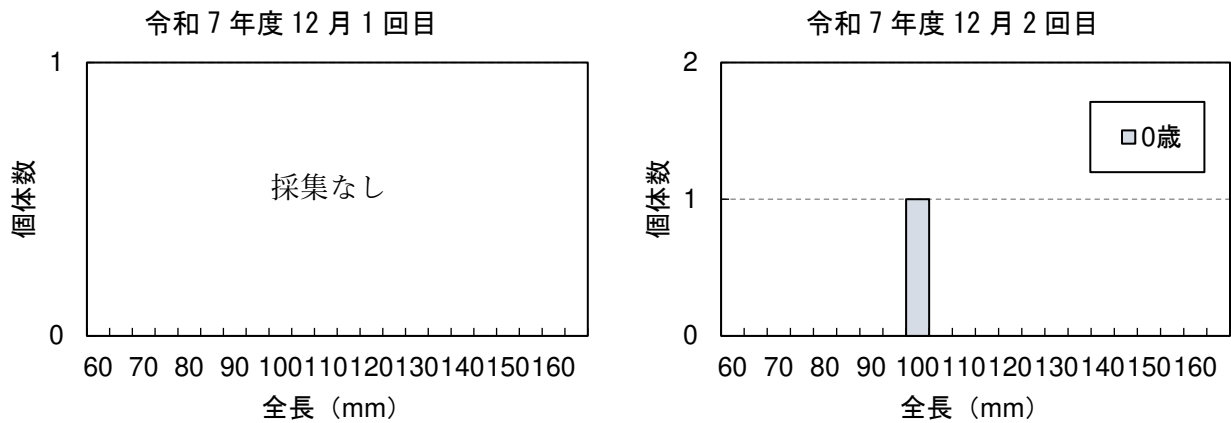


図3 イカナゴ親魚の全長組成 (左:1回目調査、右:2回目調査)

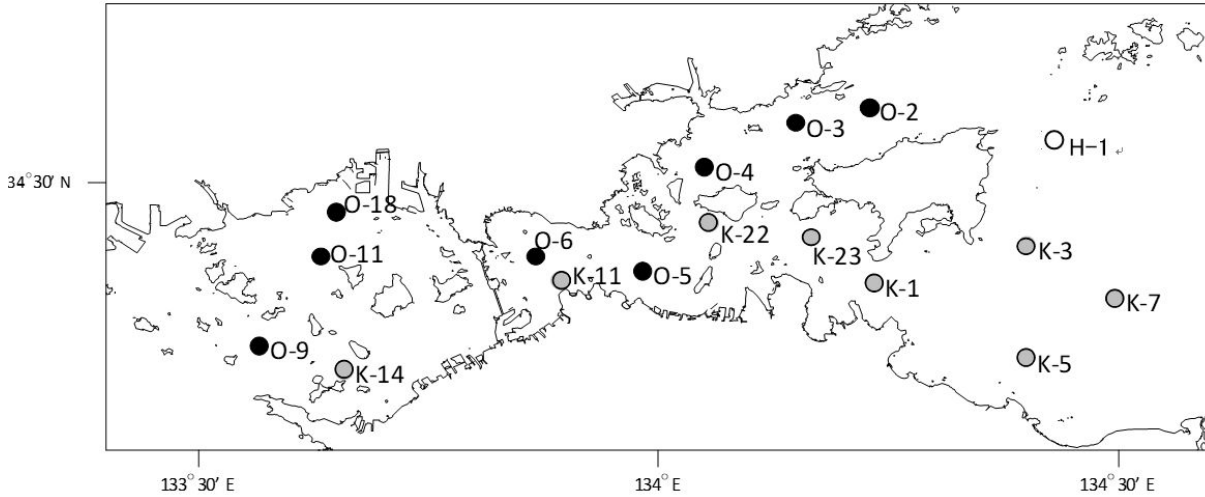
## 3. イカナゴの産卵状況

- ・今年度の冬季調査ではメス親魚が採集されなかったため、産卵状況は確認できなかった。

#### 4. 今後の予定

##### 稚仔の出現状況調査

- ・備讃瀬戸および播磨灘の 17 調査点（下図参照）において、ボンゴネットによる往復傾斜曳きを 1 月 14～21 日（1 回目）および 1 月 27 日～2 月 3 日（2 回目）に実施予定。



本調査は水産庁「水産資源調査・評価推進委託事業」の一環で実施されている。

お問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所

(担当：浮魚資源部 浮魚第2グループ 高橋)

TEL：0829-55-3593 FAX：0829-54-1216

E-mail：takahashi\_masanori09@fra.go.jp